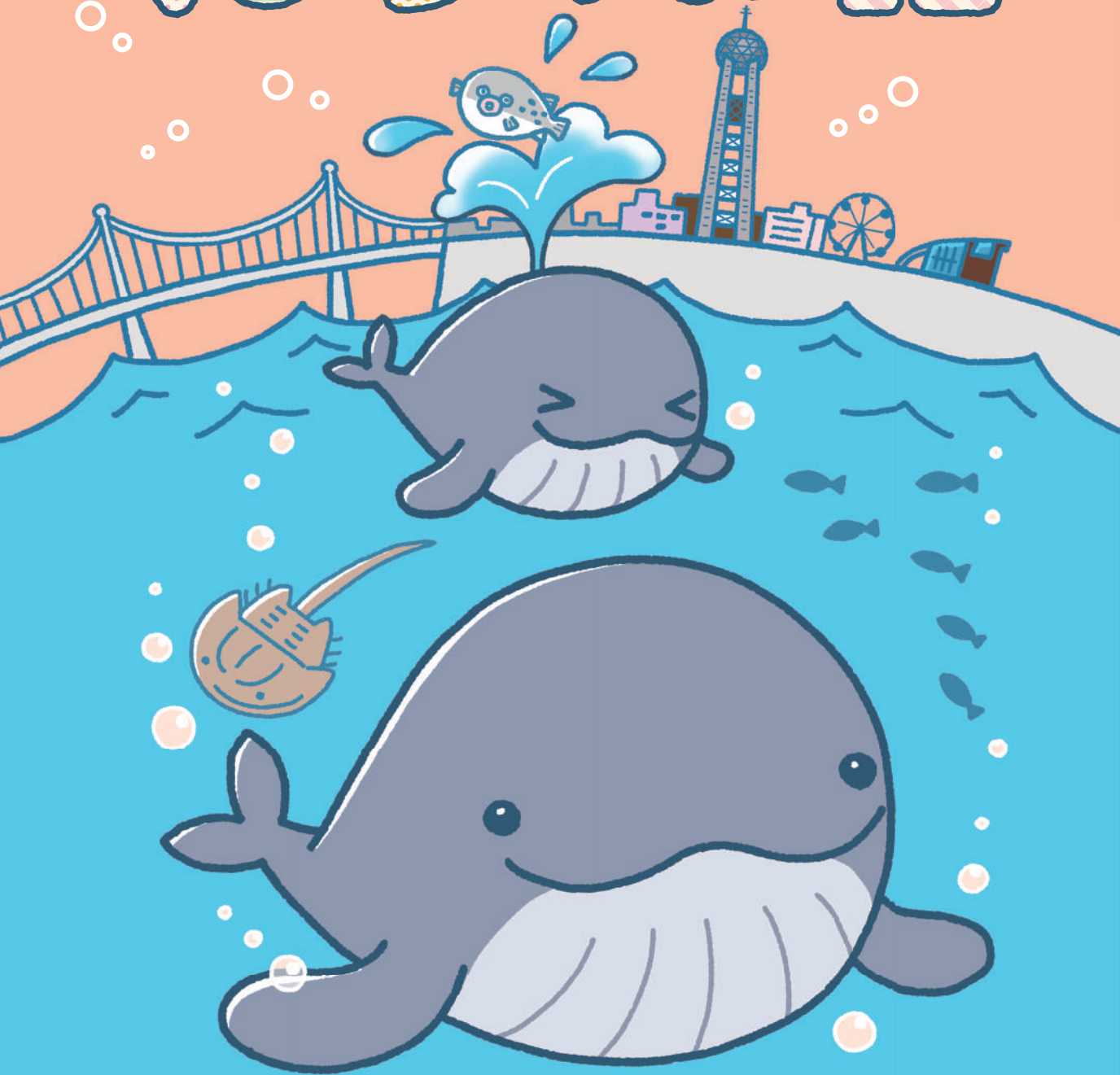


やまぐちの くじらのお話



F M Y エフエム山口

一般財団法人 日本鯨類研究所

やまぐちの くじらのお話



四方を海に開かれた日本は、大昔からくじらと関わってきました。中でもわたしたちが住む山口県は、くじらと特に関係が深いことを知っていますか？長門は古式捕鯨（※）の地として、下関は「くじらの街・下関」として全国に知られ、まちのあちこちにはくじらに関するスポットがあります。みなさんの学校給食にくじら料理が登場するのも、古くからあるくじらの食文化を受け継いでいくためなんです。

2019年7月に日本は中断していた商業捕鯨を31年ぶりに再開しました。この再開により、日本とくじら、山口とくじらの新しい歴史が始まったともいえるでしょう。この冊子は、くじらや捕鯨、長門と下関の捕鯨の歴史について楽しく学べる一冊です。ぜひ読んでみてください！

contents

- P3 日本鯨類研究所は
どんな活動をしているの？
- P4 くじらのことを知ろう！
- P10 日本の捕鯨の歴史
- P12 日本のくじら事情
- P14 日本におけるくじらの活用
- P16 ヘルシーで栄養たっぷりのくじら肉
- P18 山口県のかじら食文化
- P20 くじら料理いただきます！
- P22 日本の捕鯨地図
- P24 長門のかじら物語
- P26 下関のかじら物語
- P28 世界の捕鯨
- P30 くじらのドリル
- 裏表紙 くじらの用語解説
くじらのドリルの答え

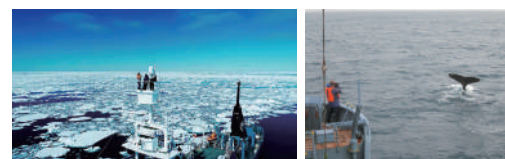
日本鯨類研究所は どんな活動をしているの？

日本にはくじらについて調査したうえで、保護しながら、ずっと安心してくじら肉を食べることができるよう活動している研究所があります。

日本鯨類研究所の主な調査内容

南極海鯨類資源調査 (JASS-A（※）)

調査の目的は、大型鯨類がどれくらい海に生息しているのかを知るために必要な目視データを集めること、そして、自然標識の記録(個体識別写真の撮影)や衛星標識の装着、バイオプシー試料の採集を行ってこれら鯨類の資源管理に役立つ移動経路や繁殖海域の推定、個体および系群識別情報を集めることです。



北太平洋鯨類資源調査

くじら資源の分布量及び系統群や回遊行動などの生態学的情報を収集するために、北太平洋にて調査船を使用し、目視調査などのくじらを捕らずにできる調査を実施します。

IWC（※）/日本共同北太平洋鯨類目視調査 (IWC/POWER（※）)

この調査はIWC(国際捕鯨委員会)と日本が共同で行っているものです。過去数十年にわたって広域的な鯨類目視調査が行われていなかった北太平洋の調査も行ってきました。

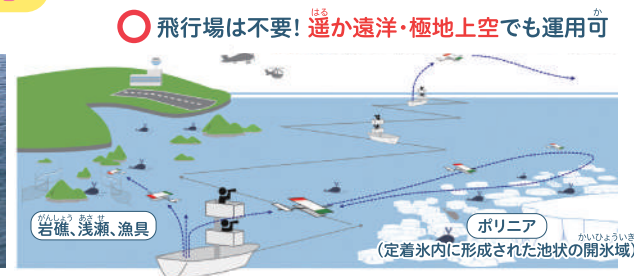


その他調査研究

- ・ストランディングレコード収集
- ・DNA分析 など。

UAV(無人航空機)の開発

新たな鯨類調査手法への活用を目指して、2019年からUAV(無人航空機)の新規開発も行っています。



新たな鯨類調査手法開発への取り組み

UAVの活用により、調査船による調査が困難な海域においても、上空から目視データや環境データなどを収集することが可能になり、より広範な海の気象状況や海域から情報を得て詳細で正確な資源研究が進められるための技術開発です。

(※)用語解説は裏表紙にあります。

くじら ことを知ろう!

みなさんはくじらについてどのくらい知っていますか？
体の仕組みや重さ、食べ物、泳ぐ速さなど、実は知らないことがたくさんあるはず。
「やまぐちのくじらのお話」を学ぶ前に、くじらについて知っておきましょう。



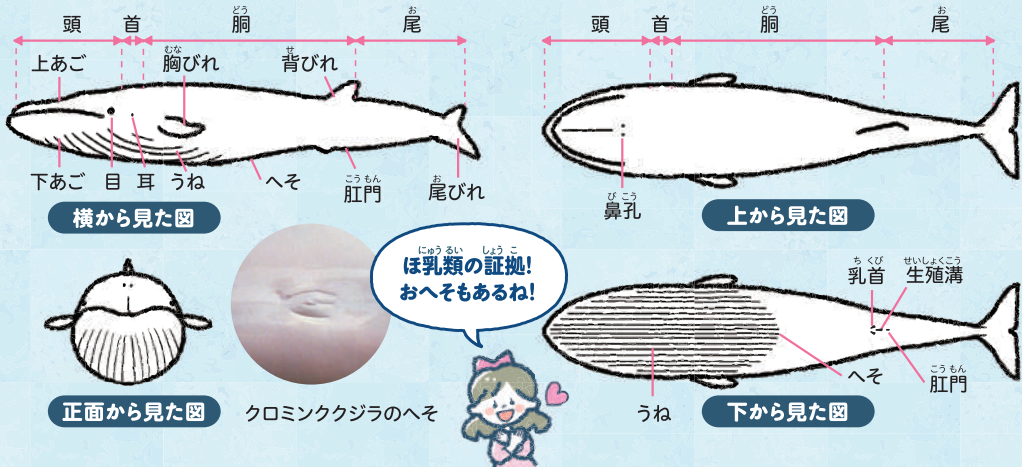
海の中にいるくじらは“魚”？

くじらは海の中で生活していますが、魚の仲間「魚類」ではありません。実はわたしたち人間と同じ「ほ乳類」の仲間なのです。もともとは四足歩行の陸上動物でしたが、水中に移り住んだことで、魚と同じような体型に変化しました。だから、くじらには「エラ」がありません。



くじらのからだを見てみよう

くじらのからだの説明図



ほ乳類の証拠!
おへそもあるね!



くじらはぼくたちと同じほ乳類なんだね!

肺呼吸だから
水面に浮上して息をするよ



お母さんのおなかから
赤ちゃんが産まれるよ



赤ちゃんはお母さんの
お乳で育つよ



どうして“ほ乳類”のくじらが海にいるの？



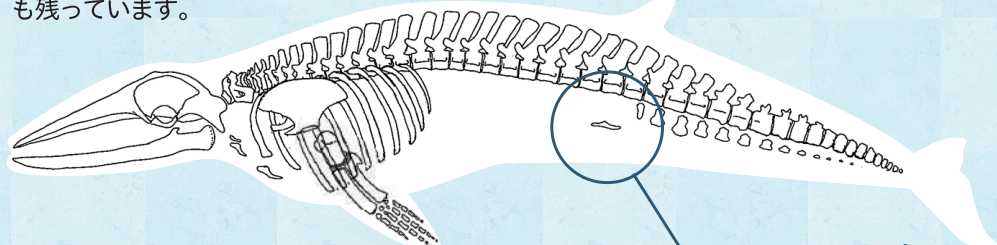
パキケタスの化石

およそ5400万年前、恐竜が絶滅して敵がいなくなったほ乳類たちは、地球のいろいろな環境に適応して増えていきました。くじらの祖先は「パキケタス」というほ乳類で、熱帯の海岸に生息していましたが、次第にエサがたくさんあり、しかもライバルが少ない海に入って生活するようになりました。そのうち、水中でも生活しやすい体に進化し、今のくじらになったのです。



くじらの足はどうなったの？

くじらの祖先「パキケタス」は四足歩行の動物でしたが、水中で生活するうちに歩かなくなりました。すると体はだんだんと変化し、前足は「胸びれ」に、後ろ足は退化してなくなってしまったのです。けれども、くじらの体には「骨盤痕跡」という後ろ足があった証拠になる骨が今も残っています。



腹びれのあるイルカ

2006年に和歌山県で捕獲されたバンドウイルカには、くじらやイルカの後ろ足の名残とも考えられている腹びれがあったと報告されているよ!



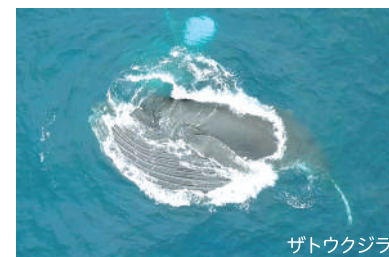
この骨だね!

これも知ってた?



くじらは水を飲まないよ。

くじらもほ乳類なので水は必要ですが、人間と同じで海水はしょっぱすぎます。なので、エサから水分をとったり、エサをエネルギーに変えるときにできる水を利用しているんだよ。



ザトウクジラ